

## 春ハクサイ

# 定植後，不織布で被覆

最近のハクサイは球内部の黄色い品種が多く出回るようになり、漬物の他に、煮物、炒め物、鍋物など幅広く利用されます。水分が多く、食物繊維、ビタミンC、カリウム、鉄分を多く含んでいます。

耐寒性は強いですが、最低気温が10度以下で一日の平均気温が15度以下になると花芽ができ、その後、高温（15～20度）でとう立ちします。秋まきしたハクサイは通常、3、4月にはとう立ちして商品価値がなくなります。このことから、3～5月上旬に出荷されるハクサイは本葉7、8枚まで最低温度15度の電気温床育苗し、定植後もPO（ポリオレフィン）フィルムのトンネル被覆で保温する必要がありました。

今回は、この方法に代わり、とう立ちが非常に遅い極晩抽性の品種（春物語など）を利用した、電熱の要らない冬まきハクサイのハウス無加温育苗による不織布べたがけ栽培を紹介します。

発芽温度は18～22度、生育適温は20度前後で冷涼な気候を好みます。土壌は弱酸性から中性が適しています。ほ場は水はけをよくしましょう。育苗はハウス内でセル成型苗育苗（72～128穴）を利用します。市販の育苗用土を利用すると便利です。12月～1月に種をまき、1カ月くらい育苗して本葉3、4枚で定植します。

本ほ1平方メートル当たり堆肥2キログラム、苦土石灰100グラム、化学肥料150グラム（チッ素、リン酸、カリが15%の場合）を目安として施します。定植の1週間前に透明ポリでマルチして、不織布のべたがけ栽培します。栽植密度はうね幅130センチ、床幅80センチ、条間50センチ、株間35～40センチの2条植えとします。

定植後すぐに不織布をべたがけし、風で飛ばされないよう端を太い専用の留め具で押さえましょう。収穫は定植後2カ月くらいでできます。頭部を手で押して締まった感じが最適です。収穫が遅れると花茎が伸びすぎます。収穫が近づいたら、試しに抜き取って花茎の長さ（8センチ以下が望ましい）を確かめると良いでしょう。なお温暖な地域ほど作りやすいですが、寒さの厳しい地域では加温育苗が必要になるなど、地域により栽培が異なりますので、注意が必要です。

（県農業開発総合センター園芸作物部研究専門員）

